くすりのしおり

内服剤
2015 年 10 月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：バラシクロビル錠 500mg「CEO」

主成分：バラシクロビル塩酸塩(Valaciclovir hydrochloride)
剤形：白色～微黄色の錠剤、長径 17.6mm、短径 8.8mm、厚さ 5.3mm
シート記載：バラシクロビル錠 500mg「CEO」、バラシクロビル、500mg、
VALACICLOVIR 500mg「CEO」、バラシクロビル、500mg、CEO601

この薬の作用と効果について

ウイルスの DNA 合成を阻害し、単純ヘルペスウイルスおよび水痘・帯状疱疹ウイルスの増殖を抑える薬です。通常、単純疱疹、造血幹細胞移植における単純ヘルペスウイルス感染症の発症抑制、帯状疱疹、性器ヘルペスの再発抑制、水痘に用いられます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

・以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。腎臓が悪い、あるいは透析を受けている。
・妊娠または授乳中
・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

・あなたの用法・用量は〈〈　　：医療担当者記入〉〉

・[成人]
単純疱疹：通常、成人は 1 回 1 錠（バラシクロビルとして 500mg）を 1 日 2 回服用します。
造血幹細胞移植における単純ヘルペスウイルス感染症（単純疱疹）の発症抑制：通常、成人は 1 回 1 錠（バラシクロビルとして 500mg）を 1 日 2 回造血幹細胞移植施行 7 日前より施行後 35 日まで服用します。
帯状疱疹：通常、成人は 1 回 2 錠（バラシクロビルとして 1,000mg）を 1 日 3 回服用します。
性器ヘルペスの再発抑制：通常、成人は 1 回 1 錠（バラシクロビルとして 500mg）を 1 日 1 回服用します。症状により服用量や服用回数が異なる場合があります。
水痘：通常、成人は 1 回 2 錠（バラシクロビルとして 1,000mg）を 1 日 3 回服用します。
[小児]
単純疱疹：通常、体重 40kg 以上の小児は 1 回 1 錠（バラシクロビルとして 500mg）を 1 日 2 回服用します。
造血幹細胞移植における単純ヘルペス感染症（単純疱疹）の発症抑制：通常、体重 40kg 以上の小児は 1 回 1 錠（バラシクロビルとして 500mg）を 1 日 2 回造血幹細胞移植施行 7 日前より施工後 35 日まで服用します。
帯状疱疹：通常、体重 40kg 以上の小児は 1 回 2 錠（バラシクロビルとして 1,000mg）を 1 日 3 回服用します。
水痘：通常、体重 40kg 以上の小児は 1 回 2 錠（バラシクロビルとして 1,000mg）を 1 日 3 回服用します。
性器ヘルペスの再発抑制：通常、体重 40kg 以上の小児は 1 回 1 錠（バラシクロビルとして 500mg）を 1 日 1 回服用します。なお、HIV 感染症の方（CD4 リンパ球数 100/mm^3 以上）は 1 回 1 錠（バラシクロビルとして 500mg）を 1 日 2 回服用します。
いずれの場合も、基礎疾患により服薬量や服薬回数が異なる場合があります。必ず指示された服用方法に従ってください。
・飲み忘れた場合は気がついたときにできるだけ早く飲んでください。ただし、次に飲む時間が近い場合は飲み忘れた分は飲まないで 1 回分を飛ばし、次に飲む時間に 1 回分を飲んでください。絶対に 2 回分を一度に飲んではいけません。
・誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
・医師の指示なしに、自分の判断で飲むのを止めないでください。

生活上の注意

・服薬中は普段より多めに水分をとってください。ただし、水分制限を指導されている方は、医師または薬剤師に相談してください。
・意識障害などがあらわれることがあるので、自動車の運転など、危険を伴う機械の操作に従事する際には十分注意をしてください。なお、腎機能障害のある方は、特に意識障害などがあらわれやすいので、医師から控えるように指示されている場合には危険を伴う機械の操作を避けてください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、頭痛、眠気などの意識低下、腹痛、吐き気、下痢、過敏症（発疹、蕁麻疹、そう痒、光

線過敏症）などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[　]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。
このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

・呼吸困難、全身のかゆみを伴った発赤、動悸［アナフィラキシーショック、アナフィラキシー］
・尿量減少、むくみ、頭痛［急性腎不全］
・意識がうすれる、幻覚、痙攣［精神神経症状］
・発熱、眼球結膜の充血、口腔粘膜などの痛みを伴った粘膜疹［中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群］
・全身倦怠感、食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる［肝炎、肝機能障害、黄疸］

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

・乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。
・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。

医療担当者記入欄　　年　　月　　日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。